

自然崇拜 Nature worship

自然崇拜(しぜんすうはい・英nature worship／physiolatry)とは、自然物・自然現象を対象とする崇拜、もしくはそれらを神格化する信仰の総称。

「自然への崇拜」ではなく、「自然」という概念ができる以前の崇拜形態である。自然崇拜は世界各地に見られ、また各地の神話にも自然物・現象を神格化した神が登場することから、古くは普遍的であったと思われる。万物に宿る精霊を崇拜対象とするアニミズムとも関係が深く、その原初的な形とも捉えられる。しかし自然崇拜では精霊でなく自然物・現象そのものを崇拜対象とする(自然と超自然的存在を区別しない)場合も多く、またしばしば特定の自然物・現象だけを尊重する点で区別される。

「ペイガニズム」も参照

対象

対象としては、

- 天空
- 大地、山、海
- 太陽、月、星(星辰崇拜)
- 雷、雨、風などの気象
- 樹木、森林
- 動物(特に熊、狼などの猛獣)
- 水、火、岩石

などが代表的。これらのうち共通の属性を持つ複数のものを一体として神格化する崇拜(例えば天空と雷など)もある。神道では、巨木、巨石(磐座)、山などを御神体とする神社も多く、これらへの自然崇拜を色濃く残している。ユーラシアの多くの牧畜民族では天空(テングリ)崇拜が重視され、シャーマニズムとも結び付いており、また中国の「天」観念との関係も指摘される。太陽崇拜が多くの民族で重視される一方で、月崇拜を重視する民族もある。火は人工物としての側面も強く、いろいろな宗教の儀式に取り入れられている。巨石崇拜も人工物(巨石記念物)への崇拜に転化しうる。

関連項目

- 天空神
- 大地母神
- 太陽神
- 天神
- 雷神
- 火炎崇拜
- 山岳信仰
- トーテム
- 生殖器崇拜
- 呪物崇拜
- 自然の聖地

最終更新 2018年4月4日（水）22:02（日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。